

主な取組み－株主・投資家

さまざまな環境問題の解決を目指した取組み



ESGファンド普及・拡大への取組み

商品・サービス

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントは、環境対策に積極的に取り組む企業に投資を行う投資信託「エコファンド」を提供しています。『損保ジャパン・グリーンオープン（愛称：ぶなの森）』は、1999年9月に運用を開始した国内エコファンドの先駆的な存在です。その純資産残高は約248億円（2019年4月末時点）と国内のESG公募投信では最大級の残高水準を有しています。環境問題に積極的に取り組む企業に投資することにより、投資家の資金が間接的に環境保全に貢献することが期待されます。

2018年度は、長期に渡る先駆的な活動と高い運用パフォーマンスの両立等を評価され、「21世紀金融動原則」の最優良取組事例として、「環境大臣賞総合部門特別賞」を受賞しました。



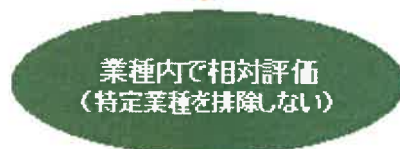
エコファンドを通じたCSRコミュニケーション

SOMPOリスクマネジメントは、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントが販売しているエコファンドにおいて、環境経営分析を実施しています。『ぶなの森』では、約800社の対象企業に対して、毎年アンケートを実施し、環境経営度を調査し、分析結果をフィードバックしています。

また、投資家へ環境情報を提供するコミュニケーションにも取り組んでいます。『ぶなの森』の月次運用レポートでは、組入銘柄企業の優れた環境への取組みを紹介するとともに、環境に関する最新情報を掲載したニュースを年4回発行しています。

このように、当社グループでは環境経営分析や企業・投資家とのエンゲージメントを通じて、企業の環境やCSRの取組みの普及・促進を図っています。

○対象企業の選定	・環境マネジメントシステムの導入やCSRレポートの発行等のESG情報開示の取組みを踏まえ、対象企業を選定
○アンケート調査	・相対的に環境への取組みが進んでいると判断される企業にアンケートを送付
○企業ヒアリング	・環境分析チームによる企業ヒアリングや、環境報告書等の公開情報による分析





事業を通じたコミュニティ・社会への貢献



日本版ステュワードシップ・コードに沿ってエンゲージメントを実施

損保ジャパン日本興亜および損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントは、「責任ある機関投資家」の諸原則として公表された日本版ステュワードシップ・コードの趣旨に賛同し、具体的対応方針をホームページに公表しています。

日本版ステュワードシップ・コードでは、投資先企業の企業価値の向上や持続的成長を促すことが求められており、その取組みの意義や重要性を十分に認識したうえで、投資先企業とのエンゲージメントを行っています。

- ▶ [日本版ステュワードシップ・コードに関する対応方針（損保ジャパン日本興亜）](#) 
- ▶ [日本版ステュワードシップ・コードに関する対応方針（損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント）](#) 

ビジネスのグローバルな展開

連携

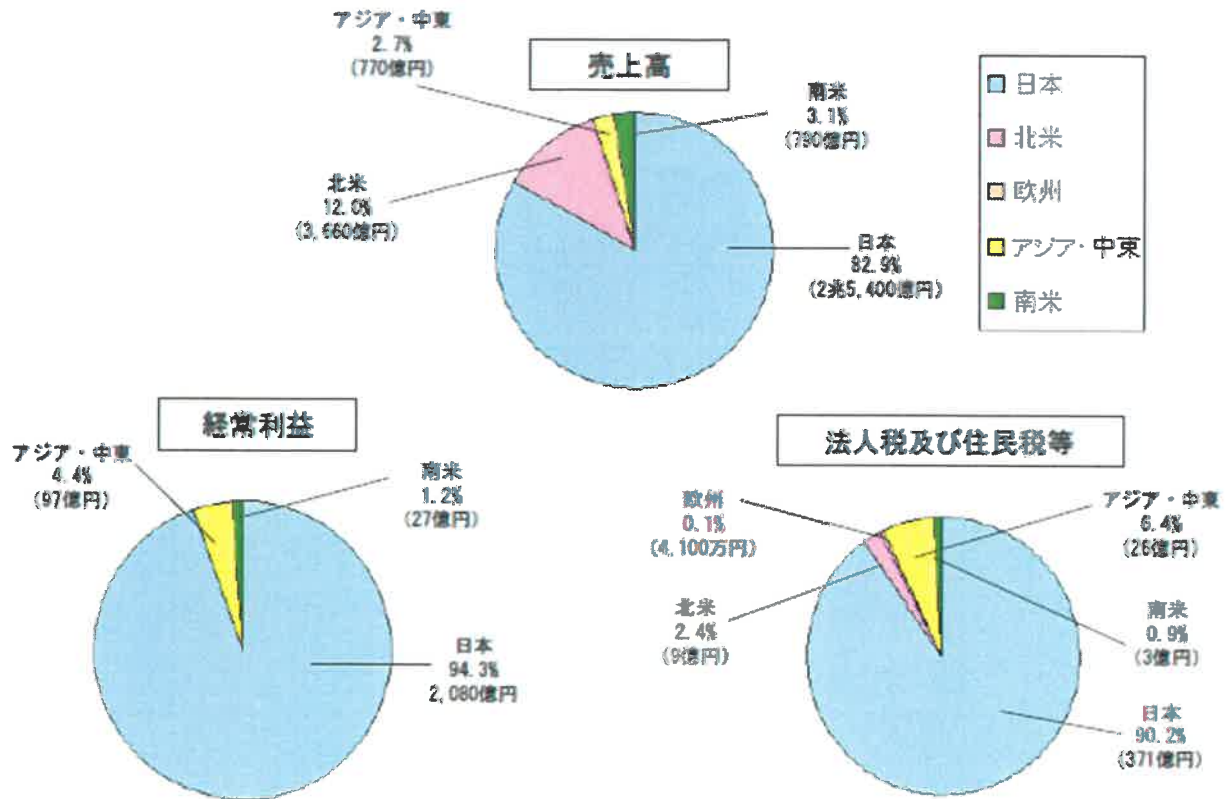
SOMPOホールディングスグループは、以下方針のとおり、正当な利潤を追求すると共に適正な納税を実施しています。

<適切な納税を通じた社会的責任の遂行>

当社は、あらゆるステークホルダーの立場を尊重し、事業活動を展開する国・地域に適用される税法を遵守の上、適正な税負担の実現に努めることで、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

また、欧州、中東、北米、中南米、アジア、オセアニア、アフリカの32カ国・地域、211都市をカバーするネットワークを有しており、保険引受業務のほか、事故対応、リスクエンジニアリングなどのサービスを幅広く提供しています。

オーガニックな成長に加え、規律ある投資を行うことで、持続的な成長と株主価値向上を両立することを目指しています。



(注) HD連結財務諸表の公表数値をベースに算出。売上高は正味収入保険料と生命保険料の合計値としている。介護・ヘルスケアは含んでいない。